

ブカレスト大学の日本学科と私

～私が日本学科を選んだ理由～

グループ番号 P 、 Sebastian Padure (セバステイアン・パドゥール)

1. 日本学科と私

ルーマニアのブカレスト大学に入った時、私は新しい土地での生活や人間関係に少し不安を感じていました。けれどもすぐに多くの友達を作り、ブカレスト大学が私にとって大切な場所になりました。では、ブカレスト大学における日本学科のコミュニティについて少し紹介したいと思います。

まず、日本語を勉強したい人や日本のことについて調べたい人が日本学科に入り、日本の歴史や日本の文化、日本語などを勉強することができます。日本のことについて興味がある人と話すのは楽しいです。そして日本学科の中には様々なクラブやサークル活動があり、私は将棋クラブに所属しています。しかし、クラブに入らなくてもクラブ活動に参加することができます。

ブカレスト大学には日本学科が主催する様々なイベントがあります。その際に、クラブのメンバーは自分のクラブに参加して、興味がある見学者に自分の活動を紹介し、それを通して多くの人と友達になることができます。

最後に日本学科を選んだ理由は、日本が大好きで、日本語を勉強し、将来日本に行きたいと思ったからです。

2. 取材散歩に行ってみて

グループの中で光さんのコミュニティのところへ行くことにしました。その日の天気は非常に雨が強く、みなさんは少し不安になりました。しかしすぐに呼んだタクシーが来て、秋田駅に到着しました。その後電車に乗り、秋田駅から10分で教会の駅に到着しました。そこからまた少し歩くと、高い建物が見えてきて、すぐに教会だとわかりました。

その教会に着いた時、人はあまりいませんでしたが、教会に入ってすぐ女の人が歓迎してくれました。その人は本当に優しく、何か質問があったらぜひ聞いてくださいと言いました。そしてその教会内の大きなホールへ行き、すごく美しく、広く、近代的なホールだと思いました。そこで光さんは様々なことについてわかりやすく紹介してくれました。彼女にとって、一番楽しいことは歌を歌うことだそうです。

その教会は五階まであり、すべての階を見ることができました。光さんが子供の遊び場を見せてくれた後、みんなでオーケストラの練習場所を見に行きました。ちなみに、宗教をより深く勉強したい人のために、特別授業があるそうです。そして最後に、電車を待ちながらケーキ屋さんに行き、みんなで一緒に食べました。その日は教会について教えていただき、大変勉強になりました。

3. 話し合い相手について

ブカレスト大学に入学した学生は一つ専門を選択し、副専攻も選ばなければなりません。私は大学に入学してから日本語を勉強し始めましたが、日本語は難しいと聞いて、実際に難しそうだったので副専攻を英語にしました。なぜなら英語は10年間勉強していて、私にとってあまり難しくなかったからです。

しかし、日本学科に入学してから新たに二つ言語を勉強し始めた人がいました。その方の名前はマグダさんと言います。彼女は入学前に日本語とドイツ語について何も知りませんでしたでしたが、大学生になってから始めたそうです。それを聞いた私は「この女性がすごい」と思いました。

彼女と友達になり、話をすると、すごく優しくて面白い人だとわかりました。また、大変な努力家でもありました。二つの言語を1から学ぶことは簡単なことではありませんが、彼女のように強い意志のある方であれば続けることができます。彼女はドイツの大学へ留学することにし、残念ながら日本には来ませんでした。私にとって大きな影響を与えた方の一人です。

4. 話し合い結果

マグダさんは今もドイツへ留学中で、大学の日本学科に通っています。ブカレスト大学の日本学科についてどう思うかを聞くため、Skypeで彼女と話をしました。例えば、なぜブカレスト大学の日本学科を選んだのか、他の学科と比べて良いところや悪いところはあるか、などです。しかし一番聞きたかったことは、今まで日本学科で学び何を感じたか、そしてこの学科に満足しているかでした。

まず、この学科の選んだ理由を聞くと、日本語と日本の文化が大好きだからと答えました。マグダさんは昔から日本語を勉強したかったと言っており、そのために一番良い大学を探したところ、ブカレスト大学の日本学科が当てはまりました。しかしブカレストには他にも日本学科のある大学は存在します。しかしながら、ブカレスト大学以外は行くつもりがありませんでした。なぜならブカレスト大学はルーマニアで最高の大学と言われているからです。

続いて、彼女の思う日本学科の好きなのところは、毎年様々なイベントがあるということです。今までマグダさんは書道とアニメのクラブに所属し、これらのクラブが関わる祭りやイベントがあった時には必ず参加しています。その際、いろいろな人と日本について交流したり日本語を練習したりすることができるので、毎回非常に楽しかったと言っていました。

最後に、日本学科で良い先生や友達と巡り合えたのがうれしいと言っていました。彼らはとても優しい人たちばかりなので、もし困っていることがあったらすぐに手伝ってくれます。また、お互いに頼みやすい環境でもあります。マグダさんにとって日本学科は大事なコミュニティです。そして、私にとってもそう思います。

5. 日本学科と私

大学に入る前に、どのようなコミュニティに参加したいのか、私とどんな関係があるのか、卒業した後でそのコミュニティで勉強したことを使って、何をなりたいかと考えました。コミュニティを決めて、その結果、ブカレスト大学の日本学科を選びました。その理由には二つのポイントがあります。

一つ目は、そのコミュニティの中で勉強できることと好きなことが同じため、自分が真剣にその道を究めようと思ったからです。私の場合は日本語でした。そのため、好きなものを学べる日本学科の道を選びました。

二つ目は、将来日本語を使った仕事に就きたいからです。入学前、自分はなぜ日本語を勉強したいのか、なぜ日本に行きたいのか、日本語を使って何ができるようになりたいのかを考えていました。そして、日本語が大好きで、日本語の勉強を選ぶのは当然と思い、日本や日本語に関係がある仕事を目指すことにしました。

私にとって日本語の勉強はいつか日本と関係がある仕事を探すため、また将来日本語を使って会社で働くために、大変大事なことです。それで日本語を上手になるために日本へ留学することにしました。

6. 「コミュニティ」「コミュニケーション」とは何か

自分にとって「コミュニティ」は何か、なぜ「コミュニケーション」が大切なのかを考えると、答えをしているのに、説明するのは複雑なことです。なぜそのことは複雑なことか。まず、人々によって「コミュニティ」のことは違います。「コミュニティ」のことは大事なことと言われているんですから、皆の「だコミュニティ」は同じではありません。なぜなら人々によってその大切なことや大事な友達は違うと思います。

例えば、誰かのために家族は友人より重要ですが、誰かのために友達や仕事は家族よりも重要な場合もあります。私にとって一番大切なコミュニティは家族のコミュニティです。その後は彼女や友達の人たちもいます。結局コミュニティのことは、今どこに過ごしたいか、だれと話したいのかということと考えられます。例えば、心が宗教の人たちと一緒にすっといいたい時に、その人たちは自分の大事なコミュニティと思われず。

また、コミュニティの必要なことはコミュニケーションのことです。どうしてコミュニケーションは必要かを考え、一番簡単な答えが出て来ます。時々自分でやることができなく、ほかの人の手伝ってもらいたいです。もしその人に聞かないと、その人は自分の状況を知らなく、自分のために何もできません。また、自分本当の気持ちや感じをだれかと言いきくと考えているんですが、コミュニティの大事な友達には言いやすいと思います。幸せになるために、コミュニケーションは大切なことと考えられます。

7. クラスについての感想

このクラスで多くの日本人や外国人と交流することができました。皆と友達になって様々な話をしました。皆と話して、私の考え方と日本人の考え方は違うこととわかりました。日本人にとって大切なことや大事なコミュニティをすこし理解しました。皆は毎回親切によくわからなかったことをもう一度私のために説明してもらいました。

授業でその内容があまり複雑な内容ではないのに、自分で自分自身や意識をもう一度確かめて、授業の問題についてよくよく考えなければなりません。毎回その問題をよく分からなかったのは日本語がまだ上手ではわいかもかもしれませんが、先生とグループの学生がいたから、なんとかできました。結局この授業の人たちは自分の日本人のコミュニティになりました。